

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100224		
法人名	社会福祉法人共生会		
事業所名	共生家かみこもりや		
所在地	宇都宮市上籠谷町3564-2		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成30年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型事業所として地域住民の福祉相談の場として様々な利用者様からのニーズに応えられるグループホームです。利用者様一人ひとりの人格・気持ち・人生を尊重し、どんなことがあっても決して人格を否定しません。常に愛情と笑顔を決して絶やさずにご利用者様や家族様と接しています。ご利用者や地域住民を含め安心して暮らせる福祉社会を目指しています。地域福祉の向上に努め、関わる全ての方々との信頼関係に努め、地域で愛される施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、宇都宮市東部の農地と住宅に囲まれた閑静な環境にあり、同一法人の小規模多機能型居宅介護、ショートステイ、デイサービス等の事業所と隣接しあって、互いに連携しながら、地域に溶け込み、在宅をメインとしたサービスを行っている。事業所の外に設置されたピンコロ地蔵は地域住民に親しまれ、法人の夏祭りやピンコロ祭りには利用者や家族のほか地域の人でも大勢参加し、交流を深めている。医師、家族、事業所等の連携・協力のもとに看取りにも積極的に取り組んでいる。職員間で事業所の理念を共有し、連携を取りながら、利用者が毎日を笑顔で楽しみ、ここに住んでよかったと思ってもらえるようサービスの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共生会の理念である「尊厳・愛情・信頼・安心」を基本に地域密着型サービスの基本である住み慣れた地域での生活を出来るようにする視点から共生会理念の一つにある共に生き、共に育み安心して暮らせる社会福祉を目指し、関わる全ての方々との信頼関係の構築に努めている。	法人理念を事業所理念とし、事務室内に掲示し職員の意識の共有を図っている。地域とのつながり、人々との交流・信頼関係があつてこそこのグループホームという意識を職員全員が持ってサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回地域住民や他事業所との交流が図れるようお祭りや催し物、勉強会の開催を企画している。	自治会に加入し回覧板を利用して事業所の情報を地域に発信している。散歩中に気軽にあいさつを交わしたり、毎年の法人の夏祭りには大勢の地域住民を招き利用者との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、勉強会、地域ケア会議に参加し、事業所のピーアールに努めている。気軽に相談しやすい雰囲気にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度のペースで開催している。事業所の取り組みやサービス状況を報告して、出た意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者・家族等の参加のもと2カ月に1度開催し、状況報告や運営方針等の説明を行い、質問や意見をもらっている。出された意見等は運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じて、地域包括支援センターとの意見交換を行い、協力関係を築いている。	運営推進会議に出席する地域包括支援センター職員を通じて連携を取っているが、相談等があれば直接市を訪問したり電話して助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを通じて、正しい理解を深めて。職員は、常に介助方法の話し合いを持ちながら身体拘束を行わないケアを徹底している。	身体拘束に関してはマニュアルや社内研修を通して職員に身体拘束のデメリットなど学ぶ機会を設けている。業務中も職員同士常に意識して注意しあっている。玄関の施錠は見守り対応しながら職員が管理している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいて、虐待に関する事例等の話と説明を行いながら虐待のない介護に努めている。		

共生家かみこもりやグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や図書等を通じて権利擁護に関する制度の理解に努め、必要性のある利用者については地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携をとりながら、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に、不明な点が残らないように十分な説明や話し合いを行い理解、納得していただけるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や提案・要望があれば管理者に報告し、運営に反映させている、また運営推進会議でも報告するようにしている。	利用者、家族とは、面会等の来所時や電話など、常にコミュニケーションをとるように努め、意見や要望等は運営に反映させている。家族には月1回利用者の状況を手紙にして写真を添えて報告している他、ブログも作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を開催し、意見や提案を述べられる機会を設けている。又、個人面談にも適宜対応しており話し合いをしながら運営に反映させている。	月1回のユニット会議を設けて職員から意見提案等を出してもらっている。2ユニット合同で発言しやすい雰囲気を作り、出された多様な意見を運営に反映させている。日常的にも職員から挙げられる意見や提案は管理者に届くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な職位表を開示し、目標も持って働ける環境を整備している。社内交流行事、社員旅行等で補助等も行っている。誕生日月にはプレゼントを贈っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議と併せて研修を取り入れている。積極的に参加を促しており、新卒、未経験者の職員でも安心して働けるように就業マニュアルを用意している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の交流行事・施設見学等に参加を行い、閉鎖的な施設やマンネリ化とならない様に他事業所の取り組みを学ばせてもらったり、常に前向きなモチベーションを得られるよう配慮している。		

共生家かみこもりやグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人、家族よりニーズを確認し本人の望む暮らしが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時にご家族様の要望を聴きながら不安の解消に努め、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所時にアセスメントを行い、その情報を基に現時点での本人・家族が必要としている生活ができるように他サービスを含め情報提供して共に検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・入居者同士の馴染みの関係を意識しながら支援を行っている。支援をする側とされる側という意識を持たないようにしながらお互いが協働し合いながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係が希薄にならないように定期的に意見交換や日々の生活情報を共有し皆が同じ思いで支えていけるよう関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴や生活習慣を尊重し、知人・友人の面会等、ご家族の協力をいただきながら継続的に交流が持てるよう取り組んでいる。	本人の生活歴を把握し、本人や家族の要望を聞き、知人や友人との面会、馴染みの場所への散策や車を使っての遠出、畑作業など、馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共にする中で職員が利用者同士の関係作りの為に橋渡しすることもあるが、基本は入居者同士が自然な形で支え合いながら生活していけるよう努めている。		

共生家かみこもりやグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談して頂けるような関係作りに日ごろから務めている。状態や環境に合わせ、どのようなサービスが必要か共に考え支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意向・希望を把握し実現できるように努めている。また、難しい場合でも可能な限り検討し実現に努めている。	普段から職員が寄り添い意向や希望を把握している。週1回映画の日を設け、日常会話の中から見たい映画を聞いている。困難な場合でも、表情や動作などから思いの把握に努め、本人らしい生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人様から十分に生活歴や基本情報を聞き取り把握に努めている。又、サービス利用経過状況についても家族や関係者等から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のサイクルや日々の心身状態、認知症症状等の把握、ADLの把握等、毎日の生活を共にしながら全体像の把握に努め職員全体で共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報や気づき等を計画に取り入れて作成するように努めている。本人様にとってどんな支援が必要なのか、職員間で話し合い計画に取り入れるようにしている。	本人・家族の要望、職員の意見をもとに計画作成担当者が作成している。3～6カ月毎に見直しを行い、状態が急変した場合はその都度見直し変更している。毎日のモニタリングを積み重ね、個別に適切な介護ができるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や認知症症状等の把握に努め共有している。毎月の会議で実践状況や気づきを話し合い、共有把握をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サ高住や小多機の行事に参加したり医療では往診を取り入れて柔軟に対応している。		

共生家かみこもりやグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや外出行事を積極的に取り入れて閉ざされた空間での生活にならない様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視して殆どの方が提供医療機関による往診を受けている。状態変化時は主治医と家族へ速やかに連絡対応している。	従来からのかかりつけ医だけでなく、2週間毎に往診のある事業所協力医の受診を希望する利用者も多い。事業所の看護師が中心となり、家族・主治医・事業所間の情報を共有し、適切な医療を受診できるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を看護職と共有、相談し利用者様の生活を支えている。小さな変化も見逃さないようにし、早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会、退院時のカンファレンス等で情報収集に努めている。また、主治医やMSWとの面談、電話での連携も十分に図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームは家であることを基本にご利用者、ご家族の自己決定を重要視した看取りの支援をさせて頂くように努めている。重度化に伴う意思確認書(同意書)については家族への説明を行っている。	契約時に、重度化した場合について、事業所、家族、医師の認識を確認するため文書を取り交わしている。看取りについては連携を大切に、いつでも連絡、相談、確認できる体制を整え、実績を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は、職員へ細かく周知しており、内部研修等においても応急措置や初期対応など学ぶ機会を設けて実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日中、夜間を想定した避難訓練を行い利用者の安全な避難方法確認したり、災害時の協力は自治会や消防団にお願いしている。	年2回、内1回は消防署立ち合いで避難訓練を実施している。防災器具のメンテナンスは業者に委託している。連絡網も整備し、自治会長の協力も得ている。備蓄は隣接のデイサービスセンターに保管している。	全職員が災害に対応できるように、定期的な自主訓練を取り入れたり、自治会長を始め地域の人に訓練に参加してもらうなど、地域との協力体制をさらに進める取り組みを期待したい。

共生家かみこもりやグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定の大切さを職員全員が理解しながら、声掛けや言葉遣いには十分に配慮している。	職員は利用者の人格を尊重した態度で接し、丁寧な声掛けに努めている。名前を呼ぶ時は苗字に「さん」付けを基本としている。個人情報のファイルは鍵付きの棚に保管し、写真の掲載はあらかじめ家族の許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の考えや希望で自己決定に結び付けている。表せない利用者はプライバシーを損ねるような対応にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活習慣や気持ちを尊重しながらできる限り個別性のある支援を心がけている。職員の都合による生活とならない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様にその人の方らしさが保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食共に給食方式ではあるが栄養士と相談して嗜好調査を行いながらメニューに反映している。個々の能力に応じて出来る事をして頂いている。	隣接のデイサービスセンターで作ったおかずを中心に、みそ汁、ご飯を事業所で作って提供している。利用者にはできることを手伝ってもらい、おやつレクリエーションでクッキーやぜんざいを手作りしたり、外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせて量や形態、食器、食べ方を工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりの能力に応じて支援し自立の方も含め口腔内の状況観察に努めている。		

共生家かみこもりやグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来る様に支援している排泄能力や排泄パターンを把握に努めている。	トイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの状況に合わせた排泄支援をしている。自尊心を損なわないよう声掛けをしながらトイレ誘導し見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因や及ぼす影響を理解しながらも毎日の体を動かす機会と水分量を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者それぞれの希望に合わせて実施している。体調が優れない時や拒否がある場合は、時間や日にちを調整して実施している。	利用者の希望や体調に合わせて1対1の個別対応で、週2～3回入浴できる体制にしている。柚子湯など季節が感じられる工夫をして、リラックスできる時間を提供している。入浴拒否のある人にも声掛けの工夫により入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝環境を整え日中の活動を積極的にとり生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士連携を図りながら、処方されている薬について十分に理解するように努めている。症状変化についてはご家族や主治医と相談しながら服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や状態を把握して、出来る事、出来ない事を把握して自らが行えるように支援している。季節行事や外出行事を大切に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、利用者の希望や意向に沿った外出や外食の支援に努めている。普段からも施設周辺の散策など運動がてら気分転換に出かけている。	日頃から、近所に散歩に出て畑の花を見たり、住民と言葉を交わしたりしている。気分転換のためのドライブも計画し実施している。デイサービスの車を利用して外食も兼ねた遠出の外出等も検討している。	

共生家かみこもりやグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力を十分に家族と判断して相談のうえで判断している。管理が難しく紛失の可能性がある方についてはご説明したうえで金庫にお預かりしている。毎月支出報告書を家族にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご利用者を希望される方については、いつでも使用して頂けるように支援を行っている。又、様子や予定も盛り込んだご家族あての手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも快適に過ごして頂けるように環境整備を行い、不快感の減少に心がけている。家で過ごしているようなくつろいでいただける空間作りを行っている。	リビング、廊下、浴室などはエアコンや加湿器等を使い、快適な室温管理をし、天井からの自然光、やわらかい間接照明により、居心地の良い環境づくりに配慮している。絵画や利用者と職員合作の作品、利用者作の折り鶴を飾るなど、ゆったりした共有空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間的な制限もあるが居心地の良い環境で利用者様同士が過ごせる空間となるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、出来る限り自宅環境に近い環境となるように家族様に説明している	エアコン・クローゼット・ベッド・寝具・カーテンは備え付けで、利用者は使い慣れた物を持ち込んでいる。自分の家にいるように、写真や好みの品を飾り、自分らしい部屋となるよう支援している。掃除は毎日職員が行い、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることを理解しながら安全に行える環境を作り、出来ることはこなっただけのように見守りの中で日々の生活が送れるように支援している。		